

「豊かな心」を育む道徳教育の在り方

「特別の教科」化への背景と道徳科の目標

平成27年に学習指導要領が一部改訂され、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から、「特別の教科 道徳」（道徳科）が実施される。その大きなきっかけとなったのは、未だ止むことのない、いじめに関する痛ましい事件である。現実のいじめの問題をはじめ、急激な社会の変化に対応できる資質・能力を育むために、「問題」に対して「あなたならどうするか」を真正面から問い、自分自身のこととして多面的・多角的に考え、議論していく「**考え、議論する道徳**」へ転換することが求められている。

道徳科の特質を踏まえた

「主体的・対話的で深い学び」を具現化

→ 道徳科の学習活動「**考え、議論する道徳**」

「道徳教育」の目標

（第1章総則第1の2）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己（人間として）の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養うことを目標とすること。

*（ ）に置き換えると中学校

「特別の教科 道徳」の目標

（学習指導要領(平成29年告示)）

第1章総則第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、**自己を見つめ**、物事を（広い視野から）**多面的・多角的**に考え、自己（人間として）の**生き方についての考えを深める**学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

*（ ）を加えると中学校

【特別の教科】とは

道徳教育は、全教育活動を通じて行われることが基本原理であり、学級担任が担当することが望ましいと考えられることや、数値などによる評価はなじまないと考えられることなど、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という新たな枠組みが設けられました。

1 中心となる教材として検定教科書が導入されます。

→教科化と同時に使用されます。

2 必要授業時数を確実に確保します。

→年間35時間（小学1年は34時間）を確保し、毎時間確実に実施されます。

3 授業の質的な向上が求められます。

→目標にせまるため、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れた、多様で効果的な指導法が求められます。

4 評価が必須事項となります。

→児童生徒の道徳性に係る成長の様子などについて記述により個人内評価します。



研究の構造図（平成 29～30 年度 2 年研究 2 年次）

主題設定の理由

子ども達が自らの人生や社会における答えの定まっていない問いを自分事として受け止め、多様な他者と議論を重ね、自分にとっても他者にとっても納得できる「納得解」を得るための力の育成という役割が期待されているため。

一層高まる社会的ニーズ

- ・深刻ないじめの本質的な問題に向き合う力
- ・決まった正解のない予測困難な時代を生きる力

【研究主題】 「豊かな心」を育む道徳教育の在り方

～子どもが主体的に「考え、議論する道徳」の授業～

【目指す子ども像】

主体的な判断の下に行動し、自立し、
他者とともによりよく生きようとする子ども

【研究仮説】

子どもが自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができる教材の充実と指導方法の工夫・改善を進めることにより、子どもの道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高めることができるのではないかと。

つまり、道徳科において、考え、議論する「学び合い」を位置づけた指導過程の工夫、問題解決型の授業を展開することにより、自ら道徳的問題を分析し、複数の解決策を構想し、その理由と予測した結果を総合的に判断し、実際に道徳的行為を行うようになる。

考え、議論する 道徳の授業

【研究仮説】

1年次

成果

- ・児童一人一人が道徳的価値について深く思考することができる授業展開
- ・教材の選定・発問の工夫・教師の役割
- ・板書の工夫

課題

- ・課題提示とまとめの在り方
- ・目的に応じた話し合い活動の在り方
- ・問題の解決を自分事として捉え、思考するための学習活動の在り方

2年次

方向性

- ・「問題解決的な学習」を指導方法の中心に据えた授業づくり
- ・思考を深める手がかりとなる板書の工夫

方法

- ・検証授業による提案（3回）
- ・模擬授業、研究協議を通して理論と実践の往還を図る。

「考え、議論する道德の授業」とは

端的に表すと、どの教科でも求められている「主体的・対話的で深い学び」ができる授業と言えます。学びの主体は子どもであり、教師は子ども達の学びを実現させるために「質の高い多様な指導方法」を身に付ける必要があります。

主体的な学びを生み出す

- ・発達段階を考慮した社会的課題を取り上げる。
- ・一人一人が考え、感じたことを振り返る活動を取り入れる。

対話的な学びを生み出す

- ・自分と異なる意見と向かい合い議論する。
- ・道德的価値の葛藤や衝突が生じる場面を多面的・多角的に議論する。

深い学びを生み出す

- ・「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考える」学習を行う。
- ・道德的な問題を自分事として捉え、議論し、探求する過程を重視する。

これらの学びを生み出すために「質の高い多様な指導方法」は、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「道德的行為に関する体験的な学習」「問題解決的な学習」の3点と押さえています。



参考：「道德科に係る評価等のあり方に関する専門家会議」の報告

「考え、議論する道德の授業」を実現する5つの視点

- ① 導入時における「問題意識を持たせる効果的な発問」
- ② 展開時における「議論しやすい、議論になる効果的な中心発問」
- ③ 展開時における「目的に応じた効果的な話し合い活動」
- ④ 道德的価値を道德的実践につなげる手立て
- ⑤ 思考を深める手がかりとする「板書」



上記の視点を取り入れた授業を幅広く追試、再編できるよう以下の内容で研究を進めました。

～研究の具体～

言語活動や
協働的な学びの機会
の設定

教科書を中心とした
身近な教材の活用

研究授業における
4つの内容項目への取組

効果的な
板書パターンの提案

教材から離れる
場面とその授業展開を提案

児童の実態把握のために

年間指導計画

道徳性に関するアンケート

1 単位時間の授業へ (問題解決的な学習)

アンケートから**実態を捉え**、児童が自己を見つめ多面的・多角的に考える、発問、展開、板書等を考えました。



A	1	正しいと思うことは、勇気をもって実行している。	アイウエ
	2	まちがったことは、すなおになおしている。	アイウエ
	3	自分でできることは自分で言い、安全に生活している。	アイウエ
	4	自分のよいところや直したいところがわかる。	アイウエ
	5	自分でやろうと決めたことは、最後までがんばっている。	アイウエ
B	6	思いやりの気持ちを考えながら、親切に人と接している。	アイウエ

参考：平成 29 年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書



実践紹介にある「手品師」のように、答えが一つではなく**正解は存在しない問題**について、考えなければいけない場面は日常生活にもありますよね。児童が**多面的・多角的に考え、主体的に判断する**ために、道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような**問題解決的な学習**を取り入れました。

参考：平成 29 年告示 学習指導要領解説 特別の教科 道徳

問題解決的な学習の流れ

参考：北海道教育委員会 道徳教育の改善・充実に向けた指導資料 道徳の授業づくりについて

授業の視点

導入 短時間でスムーズに

- ◆主題に対する児童生徒の興味関心を高め、狙いの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階

展開 登場人物と重ねて

- ◆主題のねらいを達成するための中心となる段階です。中心的な資料によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値についての自覚を深める段階

終末 余韻を残す

- ◆ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、温めたりして、今後の発展につなぐ段階

視点 1

問題意識を持たせる発問

視点 2

議論になる**中心発問**

視点 3

話し合い活動

視点 4

道徳的实践につなげる手立て

視点 5

思考を深める**板書**

授業実践例（小学校低学年）

*検証授業より（新十津川町立新十津川小学校1学年 授業者 辰口 敦子）

1. 主題名 人に温かく接し、親切にする心【B 親切 思いやり】
2. 教材名 「はしの 上のおおかみ」（小学どうとく『はばたこう明日へ 1』教育出版）
3. 本時の展開

	主な学習活動（○指示／発問 ◎中心発問）
導入	○「ありがとう」と言ったり、言ってもらったりした経験を問う。
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> ○資料「はしの上のおおかみ」の前半を知り、話し合う。 ○教材の構造を明らかにする。 ○意地悪をしたおおかみ、意地悪をされたうさぎたちの気持ちを考え、色であらわす。 *ハートメーターを活用 ○くまと出会った時のおおかみの気持ちを考え、色であらわし、発表する。 *ハートメーターを活用 ○資料「はしの上のおおかみ」の後半を知り、話し合う。 ○教材の構造を明らかにする。 ・くまのおおかみへの行動。次の日のおおかみの変容。
	<p>◎おおかみの気持ちがどうなったかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おおかみの気持ちを考え、ワークシートに書く。 ・くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみの気持ちを考え、ワークシートに書く。 ・おおかみが「前よりずっといい気持ち」になれた理由を考える。 ○この時のおおかみとうさぎたちの気持ちを色であらわし、発表する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ハートメーターのうつりかわりを振り返る。 ・前半→おおかみは赤、うさぎは青。 ・後半→おおかみもうさぎも両方赤。 ・うさぎの気持ちの変容は、おおかみが優しい気持ちを持ったからと確認。
展開後半	<ul style="list-style-type: none"> ○モラルスキルトレーニングを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>楽しく本を読んでいる時、小さい子が「その本を貸して」と言ってきたらどうしますか？考えてみましょう。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○役割演技をし、行動や気持ちを考える。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○学習をふりかえり、これから自分たちはどんなことができるのか考える。 *遊び道具と一緒に使う・相手にゆずって後で使う。

②議論になる中心発問

「おおかみの気持ちが
どうなったかを考えよう。」

*発達段階と題材から、議論をしていくための根拠となる「自分の考えを持ち、表現すること」を目指した。



発問とワークシートへの記入指示の組み合わせで、どの児童も思いを書くことができた。

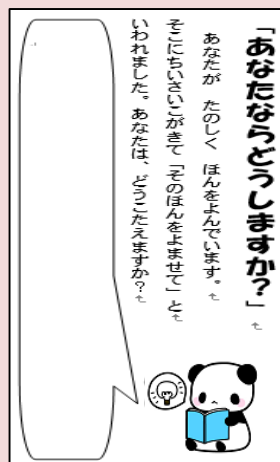
⑤思考を深める板書

児童が「おおかみ」と「うさぎたち」の心情の変化を視覚的にも把握できるように“ハートメーター”を用いた。



場面ごとの心情変化がわかり、焦点を絞ることができる。

④道徳的实践につなげる手立て



本実践での事例などのように、児童の周辺で起きる事柄をとりあげ、「自分ならどうするのか」「どのような行動が望ましいのか」を考える活動を取り入れる。

実際の行動（態度）を意識し、今後の生活につなげることができる。

授業実践例（小学校高学年）

*検証授業より（砂川市立北光小学校 6 学年 授業者 田中 圭輔）

1. 誠実に生きる【A 正直・誠実】
2. 教材名「手品師」（小学道徳『はばたこう明日へ 6』教育出版）
3. 本時の展開

	主な学習活動（○指示／発問 ◎中心発問）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行で楽しみなことは何か問う。 ○今日の道徳の授業は、自主研修で役立つかもしれないことを告げる。
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読む。 ○教材の構造を明らかにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像。男の子との約束。 ・男の子との約束と大きな劇場での公演の誘い。 ・友人の誘いを断り、男の子との約束を守る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎手品師の行動は、果たして自分自身に誠実といえるのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○いえるか いえないかを理由を含めて考え、意見を発表する。 <p>*誠実といえる → 男の子との約束を守ったから</p> <p>*誠実といえない → 友人の誘いを断ったから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらの立場にも共通することはないか考え、全体で深めていく。 <p>*共通する点 → 自分で判断。損得で動かなかった。</p>
展開後半	<ul style="list-style-type: none"> ○モラルスキルトレーニングを行う。 *資料「自主研修にて・・・」を配付する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>（概略） 修学旅行の自主研修にむけて、私、島田さん、柴田さんの3人グループで、準備をすすめてきた。そして当日、自主研修は順調に進んでいた。しかし、一番活発な島田さんが一番楽しみにしていた小物店に向かおうとしたとき、事件が起きた。3人の中で一番おとなしい柴田さんが、好きなキャラクターの店を近くに発見し、「計画とは違うけど、あっちに行かない？」と私に話しかけてきたのだ。メンバーが納得しているなら変更は構わないと先生は事前に言っていた。けれども、島田さんのことを考えると・・・。自主研修の集合時間も迫ってきている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が私の立場だったらどうするか問う。 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートに、自分ならこうするという行動を考えて書く。 ・数名に実演してもらおう。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習で感じたこと、思ったことなどを道徳ノートに書く。

①問題意識を持たせる発問

「修学旅行、何楽しみ？」

問もなく訪れる行事「修学旅行」に関わる発問を導入時に取り入れることによって、児童に問題意識を持たせることを目指した。

自分事として教材に向き合うことができた。

②議論になる中心発問

「手品師の行動は、自分自身に誠実といえるでしょうか。」

子どもたち全員がどちらか一つの立場にかたよらないよう、議論しやすい効果的な発問を設定した。

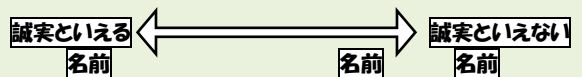
教師による「問い返し」

「○○さんはこのように言っているけど、○○さんはどう？」

児童の発言の確認や焦点化、理由や具体例、比較、言い換えなど、教師による様々な「問い返し」によって、横のつながりを生み、より深い道徳的価値に迫ることができた。

⑤思考を深める板書

『誠実といえる』、『誠実といえない』、『どちらともいえない』、『どちらかという誠実といえる』など、黒板にネームプレートを貼ることにより、「迷い」も含め、思考を『見える化』した。



文字だけではなく、記号や矢印等を用い、児童の話し合いの内容を明快に黒板に表現することで、児童の思考の手立てとなる、対比型の板書となった。



授業実践例（中学校）

*検証授業より（奈井江町立奈井江中学校1学年 授業者 森浦 佳康）

1. 主題名 家族の一員としての自覚をもち充実した家庭生活を築くこと
【C 主として集団や社会との関わりに関すること】
2. 教材名「一冊のノート」（『明日への扉』学研教育みらい） ※補助教材 家族に関する映像
3. 本時の展開

	主な学習活動（○指示／発問 ◎中心発問）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○家族のことで困ることはあるか問う。 ○家族は大切か問う。 *心情円を活用 ○課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 家族と笑顔で暮らすために 自分ができようことを考えよう。 </div>
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> ○資料「一冊のノート」の前半を知り、話し合う。 ・僕はおばあちゃんのことをどう思っていたか。 ・僕は「だけど・・・」のところで本当は何を言いたかったのか。 *怒りの気持ち・頼りたい・変化への困惑 ・祖母にどのような態度で接していたか。 *責任転嫁・声を荒げて言い返す・一斉に非難 ○資料「一冊のノート」の後半を知り、話し合う。 ○一冊のノートを読んで僕が知ったことは何だろうか。 *祖母の悲しみ、不安、家族を思う気持ち。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎僕が祖母を笑顔にするにはどうすればよいのだろうか。 「祖母の心情円を黄色くしてください。」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○個人思考をワークシートに書く。 ○モラルスキルトレーニングを行う。 ・2組のペアによる交流。2人1組で「僕」と「祖母」を演じ、別のペアが評価する。 ・全体交流 *心情円を活用し、思いを表現する。
展開後半	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に戻り、自分の家族と笑顔で暮らすために自分ができようことを考える。 ・自分ならこうするという行動を考え、ワークシートに書く。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○学習をふりかえる。 ・補助教材を視聴する。

①問題意識を持たせる発問

「家族のことで、
困ることはありますか？」
「家族は大切ですか？」

問題意識を持たせる課題設定

「家族と笑顔で暮らすために
自分ができようことを考えよう。」

自分の家族に対する感情や関わりなどを想起させることで、問題意識を持たせ教材文の問題場面を自分事としてとらえ、登場人物に自身を投影することができた。

②議論になる中心発問

「僕が祖母を笑顔にするには
どうすればよいのだろうか。」

自分事として真剣に考えることができる、議論しやすい効果的な発問を設定。「あなたならどのように声をかける？」「どんな行動をしたと思う？」などの声をかけ、生徒の個人思考を支援した。

④道徳的実践につなげる手立て

心情円の活用



プラスの感情 →黄色
マイナスの感情 →青色



2枚の円を組み合わせることで、自分で2色の割合を容易に変えることができる。生徒一人一人が持つことで、全員参加型の授業となった。

スライドや場面絵の活用



発刊にあたって

情報化やグローバル化等の社会的変化が加速度的に進展する現代社会において、未来を生きる子どもたちには、主体的に判断し、他者や社会と関わりながら課題を解決していくための力の育成が求められています。小学校ではすでに平成30年度から先行実施され、中学校では新年度から実施される「特別の教科 道徳」では、答えが一つではない課題に子どもたちが道徳的に向き合い「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることが重要となっています。

このため、空知教育センターでは、平成29年度から「豊かな心」を育む道徳教育の在り方 ～子どもが主体的に「考え、議論する道徳」の授業～ を研究主題とした2か年の研究をスタートさせました。

また、研究推進にあたっては、管内小中学校からご推薦いただいた意欲的な5名の課題研究協力員と担当所員により、「空知教育センター課題委員会」を組織し、研究実践を進めてまいりました。2年間、延べ19回にわたる研究では、模擬授業を繰り返し、課題委員会の議論や考え方を取り入れた授業公開も全て公開授業として、研究成果の発信と還流に努めてきたところです。

このたび、2年間で主体的に取り組んできた理論研究や検証授業、分析結果、考察・残された課題などをとりまとめたリーフレットを発刊する運びとなりました。このリーフレットが各学校の校内研修に、また、日々の実践のよき参考資料としていただければ幸いです。

結びに、本研究推進に当たりまして、意欲的・献身的に取り組まれた課題研究協力員の皆様、ご指導・ご助言をいただきました北海道教育庁空知教育局をはじめ関係市町教育委員会、各学校の皆様にご心より感謝とお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成31年3月

空知教育センター所長 岩田 稔

平成30年度 空知教育センター 課題研究委員会の構成員紹介

委員長	橋本 憲	教諭	北竜町立北竜中学校
副委員長	田中 圭輔	教諭	砂川市立北光小学校
委員	辰口 敦子	教諭	新十津川町立新十津川小学校
//	森浦 佳康	教諭	奈井江町立奈井江中学校
//	村川 恵太	教諭	北竜町立真竜小学校
担当所員	飯澤 静	所員	深川市立一已小学校
//	中鉢 雅美	所員	滝川市立滝川第三小学校
//	黒澤 恭太	所員	歌志内市立歌志内小学校
協力	飯塚 博明	教諭	滝川市立江陵中学校



「検証授業」指導案検討のようす

空知教育センター課題研究 「豊かな心」を育む道徳教育の在り方 2年研究のまとめ

発行日 平成31年 3月30日
発行者 空知教育センター所長
所在地 滝川市文京町4丁目1番1号
TEL 0125-22-1371
FAX 0125-22-1372
Eメール kyosen@sorachi-ed.jp
URL <http://sorachi-ed.jp/>

各種講座・検証授業の日程等の詳細は、空知教育センターHPをご覧ください。多数の参加お待ちしております。



空知教育センター

検索

